高取城　奈良県高市郡高取町高取

元弘 2 年（1332 年）に南朝方の豪族であった越智邦澄（おちくにずみ）が、貝吹山城の支城として築いた山城。当初は中世城郭によく見られる掻き揚げ城（かきあげじろ。簡単な堀と土塁がある程度の城）でしたが、後に豊臣秀長の家臣である本多利久らにより本格的な改修が行われ近世城郭へと生まれ変わりました。天正 8 年（1580 年）に織田信長の命により一旦廃城となりましたが、信長の死後、筒井順慶により復興された。以後、本多利久の時代を経て、寛永 17 年（1640 年）に譜代植村家政が入城してからは、植村家の居城として幕末まで続きました。明治 6 年（1873 年）に廃城となり、現在では建物は残っていないが、約 10m の高石垣などの遺構は人為的に破壊されることなくほぼ完全な状態をとどめている。既にご紹介している岡山の備中松山城、岐阜の美濃岩村城とともに日本三大山城の一つに数えられて、城内の周囲は約 30km、郭内（石垣内）の周囲は約 20km と推定され、これは姫路城と同等の規模に相当します。（パンフ）

当時の石垣

壺阪口門

大手門

十五間多聞櫓

太鼓櫓

新櫓

長い石垣

同城を詠んだ碑

井戸跡

貯蔵庫

天守へ通じる細い道

城下の街並み